



《 2025年 盂蘭盆会(お盆法要) 》

7月13日(日) 10:00~11:40

8月10日(日) 10:00~11:40

日時

場所

誓願寺

どなたでも
ご自由にお参りください

しんらん同人

No.587

7・8

月号

われも ひかりの うちにあり

誓願寺 住職 古賀尚之

今年も半年が過ぎました。月日の経つのが何と早いものでしょうか、と少し悲しく思う一方で、半年・百八十日もの経験を積むことが出来たと思うと、何だか豊かな気持ちになれるということに気がつきました。

「門松や 冥土の旅の 一里塚」(一休)も一つの受け止めですが、日々自分が成長していると感じることも大切なことです。

その成長が、目に見えれば更に嬉しいことです。考えましょう。

第五条

ひとつ しんらん ぶも ひとつ 親鸞は父母の孝養のためとて、一返にても念仏もうしたること、いまだそうらわず。そのゆえは、一切の有情は、みなもつて、いまだにありません。 「いまだにありません。」「どうしてかといえは、」「全ての生物は、」「皆何生にもわたつて生々生々々々父母兄弟なり。」「いづれもいづれも、この順次生に仏になりて、たすけそうろうべきなり。わがちからにてはげの最後にして仏に成つて、」「初めて助けることが出来るのです。」「もしも念仏が自分の力で励む善行でむ善にてもそうらわばこそ、念仏を回向して、父母をもたすけそうらわめ。ただ自力をすてて、いそぎ浄土のさとしましようが、そうではないのですから、」「ただ自分の能力を頼みとする心をすてて、」「急いで浄土に生まれ、」「仏の悟りを開いたならば、六道四生のあいだ、いづれの業苦にしずめりと、いようとも、」「神通方便をもつて、まず有縁を度すべきなりと云々、」「仏の自在なはたらきによつて、」「先ず縁のある人をたすけることが出来るのです。」「と、」「このように親鸞聖人からお聞きしました。

今号では「歎異抄(たんにしよう)」全十八条のなかの第五条を掲載いたします。お時間のある時に是非「原文と訳文」を【声に出して】読んでみてください。

浄土真宗本願寺派 誓願寺

〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8

【電話】03-3950-7828 【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>

迷信



誓願寺初代住職 故岡本泰雄

迷信というと、他の宗教や他の宗旨には迷信が多いと考えられますが、浄土真宗のご門徒の中にも、迷信と気づかずに迷信的行為をしている人たちがいるのではありませんか。

お葬式の時に、死んだ人にお経をあげたり、ご法事の時の読経も死んだ人たちにあげるものと考えたり。朝の礼拝に今日一日無事でありますようにと願ったり、少しでも良いことをすれば助けてもらえると考えたり、有難くなれば、助かるように思ったり、等々。細かく言うと、いろいろな迷信があるように思われます。

これらの事は、ほとんどが迷信とは知らずにいるようです。それは本当に教えを聞いていないからであります。

親鸞聖人の教えをよくよく聞かせていただいたならば、右のような誤った考えは起こるはずがありません。門徒だと言いながら、真実の教えを聞かないために迷信におちていることに気づかないのであります。

浄土真宗は、他力回向の教えであります。救われるということ、如来のお力ひとつで救われるのであって、我々の値打ち力一つもないのであります。

「生死の苦海ほとりなし ひさしく沈めるわれらをば

弥陀弘誓の船のみぞ のせてかならずわたしける」

弥陀弘誓の船に乗せていただいて、生死の苦海をわたらせていただくのであります。

お葬式は、親しい人が亡くなった時に行うお別れの式であります。しかし、死体に読経したり、読経して死人を浮かび上げらせるとでも考えたら、それは間違いであります。

お経は、仏様の説かれたみ教えであります。このお経を頂いて、亡くなられた人も、生きている私も、共に、仏さまのお慈悲の中に生かされていることを感謝するのであります。

お念仏を頂いた人なら、間違いなくお浄土に参らせていただいたでありましょうが、そうでない人はどうなったか、それは我々には分かりません。

しかし、仏さまのお慈悲はきわまりがないと聞かされておりますから、仏さまのお力で、よきように計らわれてゆくのであります。う。いずれにしても、私の力ではどうにもならない生死の大問題を、仏さまのお力で解決させていただくことを感謝するのであります。

お葬儀の場で、白骨の御文章を拝読したら、あれは私たちに聞かせてくれたものですねと、不思議そうにおっしゃった人があります。ご法話を致しますと、こんなお葬式は初めてであり、ご法話がありがたいとおっしゃる方がありました。

親しい者の死を思い、やがてわが身の上に起こる問題を考え、人間に生まれたいわれを静かに考えて、真実の法を味合わせて頂いてこそ、ご葬儀の意義があるのではありますまいか。

浄土真宗ご門徒の迷信を、きれいに洗い去りたいものです。

合掌

副住職
法話

古賀明德

法座におまいりください



暑い日が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

誓願寺では毎月2回、第2日曜日10時から、第4日曜日13時から法座が行われます。誰でもいつでも参加できる法座です。浄土真宗が好きな方、興味ある方が集まって、皆で「正信偈」のお勤めをして、布教使の方のお話を皆で聴かせてもらって、終わったら皆で母の作ったおにぎりを食べながらお話をします。参加して下さった事がある方も多くいてくれるのではないのでしょうか、皆様本当にありがとうございます。

法座には浄土真宗が本当に大好きな婦人会長ご夫婦、ご夫婦でほぼ100%いつも来てくださる方、母と一緒にいつもおにぎりを作ってくださる方、足が悪いのに一生懸命に法座に来てくれる方、いつもおはぎを作って持ってきてくれる方、仏教讃歌が本当にうまい男性、奥様を亡くされて真宗と出会い真剣に真宗を学ばれている方、いつも法座で素敵なピアノを弾いてくれる方、祖父の時代からずっとご縁のある方、私たち同様福岡出身の方、病院の先生をされている方、本当に最近真宗に出遇われた方、他にもたくさんの方々が来てくださいます。

様々な環境・境遇がそれぞれおありですが、間違いなく共通することがあります。皆様何だと思いませんか？

それは、誰もが「この世界において大切な方といのちのお別れを経験されている」のです。仏教、浄土真宗において人間は様々な苦しみを抱えながらしか生きていくことができないと説かれますが、浄土真宗第3代宗主覚如上人はその中でも人間が抱える最大の苦しみは「大好きな方と必ずいのちのお別れを迎えていかなければならない苦しみ(愛別離苦)」である。」と仰られました。様々な環境・境遇が違ってても誰もが同じように経験していかなければならない苦しみです。けれども、愛別離苦という苦しみ、悲しみがあるから私たちはこうして共に今、阿弥陀様と出遇わせていただくことができていないのでしょうか？愛別離苦を唯の苦しみ、悲しみで終わらせていくのはなんだか残念に思います。その別れを唯の苦しみ悲しみで終わらせるのではなく、私たちにとって大切な苦しみ悲しみに変えていってくれるのが浄土真宗なのではないかなと私は思います。それを皆様も気付いてくれていて、こうして法座に集まってくれるのではないかなと感じます。愛別離苦の中、大切な方のいのちを見つめ、自分のいのちを見つめ、苦しみ悲しみの中に安心喜びを問うていく、1人ではなかなか難しい事であっても皆で一緒に考えることができるのが浄土真宗のご法座です。

誓願寺では7月・8月にお盆の合同法要法座が勤められます。毎年、多くの方がお越しくださいます。ぜひ皆様も気軽にお越しください。一緒に苦しみ悲しみを安心喜びに変えてみましょう。皆様とお会いできるのを楽しみにしております。

合掌

ご法座等
のご案内

どなたでもご自由に
ご参加いただけます。
参加費は無料です。

7月

7・13
(日)

■午前十時〜

孟蘭盆会

【森島順英師（熊本県）】

■正午〜

医療相談

【佐藤公彦医師】

7・20
(日)

■午前十時〜

なかよしクラブ

(乳幼児から小学生までとその保護者)

7・27
(日)

■午後一時〜

定例法座・祥月命日合同法要

【服部法紹師（広島県）】

8月

8・10
(日)

■午前十時〜

孟蘭盆会

【上野隆平師（京都府）】

8・17
(日)

■午前十時〜

なかよしクラブ

(乳幼児から小学生までとその保護者)

8・24
(日)

■午後一時〜

定例法座・祥月命日合同法要

【濱畑慧僚師（大阪府）】



編集後記



・お米の店頭価格が、五キロ当たり四千円台を下回り、令和の米騒動が小休止ですが、新米の季節を迎え今後の価格動向にはまだまだ気が抜けません。参議院選挙を控え、バラマキ給付等ではなく、具体的な経済政策、農業政策課が必要ですが、自国ファーストを掲げる某国リーダーに振り回される日本は大丈夫なのでしょうか。

・お寺を取り巻く環境も変化しています。続けることも大切、改革も大切。お同行の皆様のご意見を伺いながら、進んでまいります。

【5月・6月のご講師】



〔6/22 中西昌弘師〕



〔6/8 上野隆平師〕

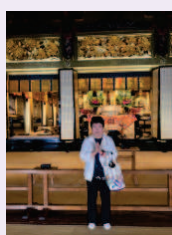


〔5/25 西原龍哉師〕

【副住職と坊守で京都のご本山にお参りました】



〔溢れんばかりの鴨のひつまぶし〕



〔西本願寺にて〕

